

# 田子町商工会行動プラン

～テーマ:地域活性化による魅力ある「田子育ち」の産業を目指して～

## (1) 商工会を取り巻く環境の現状と将来の姿

### ○自地域の総括的概要と現状課題

当町の人口は現在約4千7百人である。基幹産業である農業は、稲作やにんにく、葉たばこなどの畑作、黒毛和種などの畜産を組み合わせた複合経営が主体である。産業就業構造は農業に次ぎ、サービス業、卸売・小売・飲食、製造業となっている。製造業のうち食品加工業では従業員の高齢化や人手不足、原材料高騰によるコスト上昇などの課題の一方、にんにく加工品の製造販売関連に新規や転業が見られ地場産業としての成長が見込まれる。観光面では、特産にんにくを絡めたイベント誘客があるものの通年集客に課題がある。町が策定する「第6次田子町総合計画」では、「ひとが輝き まちが輝く 活力と笑顔あふれるまち」を基本構想に掲げ、『地域資源の活用、多様な連携・交流、基盤整備の充実によって地域活性化を図り、“魅力ある「田子育ち」の産業”を目指す』としている。

### ○人口動態

人口は、1955年の約1万1千人をピークに2020年には約4千9百人まで減少、2045年には約2千5百人まで減少するとの推計がでている。年齢構成も大きく変化し、65歳以上の高齢者割合が約40%から約59%に上昇するとしている。

### ○商工業者や小規模事業者の動向

過去20年ほどで商工業者数は約32%(110者)減少、ほぼ小規模事業者である。本会独自調査では年率換算で1.4%減となり10年後は158者へ減少する見込みである。

|        | H13 | R3  | 対比増減 | 年率換算  | R6  | R15 | R6比 |
|--------|-----|-----|------|-------|-----|-----|-----|
| 商工業者   | 345 | 235 | △110 | △1.5% | 226 | 196 | △30 |
| 小規模事業者 | 251 | 179 | △72  | △1.4% | 176 | 158 | △27 |

### ○その他産業構造など特記事項

当町は約8割が山林原野でおおわれるなど地勢的要因で畑作や畜産が盛んな一方、地理的要因により主要都市間の移動の経由地ではないことから消費の域外流入は多くはない。昭和60年のサンモールたっこ商店街の形成時を除き消費の域外流出に歯止めがかからず、昨今の経済環境の激変やECサイトの普及などの消費構造の変化により流出が一層すすんでいる。なお、一部の最寄り品、買回り品や専門品は北部の三戸町や南部の岩手県二戸市に依存しているほか、八戸経済圏域内のため八戸市にも相当程度の依存がある。

## (2) 重点推進施策

### ○基本的な考え方(ビジョン)

本会は、魅力ある「田子育ち」の産業の振興を図るため、経営力向上と販路開拓支援をすすめ、地域内外の連携強化と産業間の融合による持続可能な地域経済の構築を目指すことで、地元中小・小規模事業者の持続的発展に貢献します。

## ○主な重点推進施策

- ・伴走型支援の強化による経営発達支援事業及び経営改善普及事業の実施
- ・後継者不足や労働力不足の解消にむけた生産性向上と業務改善支援
- ・地域資源を活用した新商品開発または販路開拓の支援
- ・多様な“連携”と“融合”による地域(観光)資源を活用した交流人口増進への協力

## (3)重点推進施策を推進するための具体的な取り組み

### ○支援12項目の現状数値と数値目標の達成

| 支援項目 | 創業支援      | 事業承継     | 経営革新計画   | 経営力向上計画  |
|------|-----------|----------|----------|----------|
| 現在値  | 1 件       | 2 件      | 0 件      | 0 件      |
| 目標値  | 4 件       | 4 件      | 2 件      | 1 件      |
| 支援項目 | 持続化補助金    | 経営計画策定支援 | 経営改善普及事業 | マル経融資・件数 |
| 現在値  | 1 件       | 12 件     | 1,237 件  | 2 件      |
| 目標値  | 5 件       | 9 件      | 747 件    | 5 件      |
| 支援項目 | マル経融資・額   | 記帳継続指導   | 記帳機械化    | 労働保険     |
| 現在値  | 8,600 千円  | 14 件     | 31 件     | 141 件    |
| 目標値  | 20,808 千円 | 33 件     | 15 件     | 91 件     |

※現在値は令和5年度の値、目標値は10年後の目標値

### ○上記以外の具体的な取り組み

- ・AI(人工知能)を活用した生産性向上と業務改善への取り組み支援
- ・新商品開発にかかる支援制度の普及またはECサイト活用による販路開拓の支援
- ・町内イベントへの協力と地域ブランド普及拡大に向けた活動への協力

## (4)実施し得る体制(環境)

### ○あるべき体制

現在、本会は町中心部にある商工会館を拠点に、経営指導員1名、補助員1名、記帳専任職員1名、常用支援職員1名の計4名で運営している。今後も事業者支援体制を維持するためには広域連携先である三戸町商工会との協調は重要である。また、財政シミュレーションによれば本会の財政基盤は盤石とは云えず、商工会館の老朽化対応も含めた財政需要に対応するため、自主財源や町当局の支援による財源確保が必要である。

## (5)体制(環境)づくり(時間軸)

本会独自調査によれば、むこう10年間は補助対象職員の減員は見込まれないものの、今後の事業者ニーズに対応した支援体制の強化または財政基盤の安定には、三戸町商工会との合併を含めた商工会運営及び事業者支援体制の構築について3年以内に方向性を示す。

## (6)特記事項

町の基本構想である「ひとが輝き まちが輝く 活力と笑顔あふれるまち」の実現には、本会が魅力ある「田子育ち」の産業の振興に取り組む必要がある。そのため町との連携及び協調体制を強化し、商工会に対する安定的な支援(予算)の確保を確実なものとするため、町当局や町議会に対し本会及び本会が取り組む事業について一層の理解を求めている。